



秋田のICT化を想う

[秋田市観光クチコミ大使]

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー

取締役 ネットワークビジネス事業本部長

たむらあきとし
田村彰敏氏

秋田とのかかわり

N T T 東日本の秋田支店長として着任した2012年は、東日本大震災の復興・復旧と地方活性化がいろいろなところで話題となっていました。育った長崎市、津市を思い出しながら以前の秋田の町を想像し、秋田をどうやって盛り上げていこうかと考えていたことを強く覚えています。東京に戻ってからも秋田ゆかりの方々との懇親の機会は平均すると月に1回以上あり、また、職場での飲み会では秋田のお酒を紹介するようにしているので、「秋田出身です」とか、「親が秋田にいます」といった話から秋田のことを想う機会はまだまだ多くあります。

ICT技術を活用して 秋田を盛り上げていくために

秋田ゆかりの皆さんと集まると、秋田の素晴らしい景色、文化、食べ物とお酒を、秋田の皆さんのまじめな人柄などで活性化させていこうという話になりますが、他県でも良いものは沢山あり様々な取り組みをしています。秋田が一步先を行くためには、もう一工夫が必要なのではと思います。

一工夫のためにICT技術の活用は欠かせないものだと思います。ICT技術は日々向上していて、一度導入をあきらめても数年後には機能が充実していたり、他のアプリケーションと連携していたりして導入できるケースも少なくありません。例えば、秋田で仕事をしていた2015年に秋田で開催された『東北六魂祭』で観光客向けの無料Wi-Fiを使って「蓄積されたWi-Fiログ」の分析などを試験的に実施しましたが、Wi-Fiのアクセスポイントも少なかったため分析できるようなデータを集めることができませんでした。それから4年経った現在では秋田市だけでなく、仙北市や男鹿市などの観光拠点でもWi-Fiのアクセスポイントも増えていて今後観光客がどの場所やお店にどれくらい滞留したのかといった分析ができるような環境が整ってきました。

また、現職でも地域のICT化を進めていますが、東京都内でも小中学校のICT化を進めていて、市区単位で夏休みや春休みの時期などは小中学校のパソコンやタブレット、そして校務システムの更改などの工事がかなり立て込んでいる状況です。

最近のICT技術で言えば、キャッシュレス決済、工場や農業のICT化など、皆さんの会社でもICT技術が身近に感じられるようになってきたのではないのでしょうか？ただ、ICT技術は単に導入すると順調に効果を得られるというものばかりではありません。使い方をサポートすることや使いながら改善することで更なる効果を得られるものも多くあります。

「活力ある秋田」に寄せられる寄稿の中にも自ら取り組んでいこうといったコメントを目にします。大きな改革が伴うケースでは大きな投資が伴うものもありますが、ICT技術の中には身近なことを継続することで実現できるものも少なくありません。先日、秋田にゆかりのあるビジネスマンが東京で2ヶ月毎に集まる『秋田IT Café Tokyo』において、“職場のめんどくさい”を解決しようという取り組みがRPA (Robotic Process Automation) による効率化につながるという話が紹介されていました。こつこつと根気強く取り組むというのは秋田の人が得意なことだと思っています。

見習うような、また、ライバルとなるような地方都市は沢山あります。ICT技術は益々進化していきます。秋田のICT化をサポートするためにも、引き続き首都圏から情報発信などをし続けることができると考えております。

■略歴

- 1963年 長崎県長崎市生まれ
- 1989年 東京工業大学大学院 理工学研究科 修了
- 同 年 日本電信電話株式会社 入社
- 2012年 東日本電信電話株式会社 秋田支店長
- 2015年 東日本電信電話株式会社 資材調達センタ所長
- 2017年 現職

秋田市観光クチコミ大使 … 秋田市に縁のある経済人や転勤等で過去に秋田市に在住経験のある方々に、身近な人々へのクチコミやインターネットでの情報発信を通じて、秋田市の観光PRにご協力いただくため委嘱している。